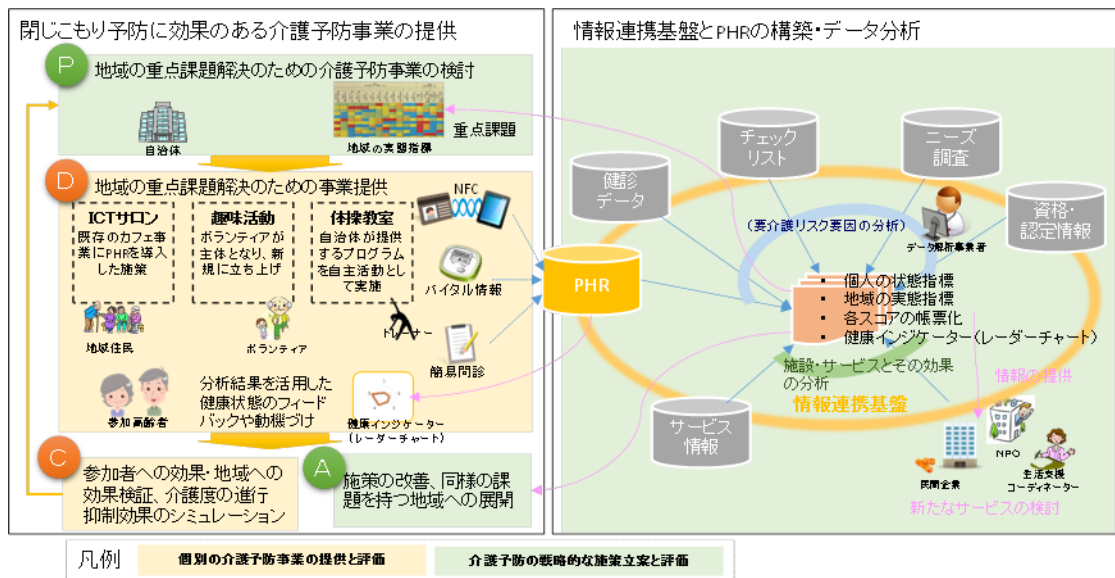


# PHR ICT地域包括ケアモデル(介護予防モデル)(神戸市)

## 1. 地域の課題

- ・介護予防・日常生活支援総合事業では地域の特性を踏まえたPDCAサイクルによる介護予防施策が必要
  - ・閉じこもり予防など個々の介護予防事業の効果検証が必要
- 情報連携基盤の導入・活用により地域の特性を見える化し施策のPDCAサイクルを確立
- 住民のPHRの推移による介護予防事業の評価

## 2. 実証の概要



- ・サロン、趣味活動、体操教室等の介護予防事業を実施し、タブレット端末やNFC付活動量計を用いたPHRシステムによって住民の参加記録・活動量・問診情報を取得。参加者にはPHRのグラフ化やゲーム性を加えたフィードバックを実施
- ・自治体が保有する医療・介護情報や個人の簡易問診データ等を情報連携基盤に統合し、分析結果をもとに要介護リスク、地域資源分布など個人・地域の特性を示す指標を策定
- ・個人・地域の指標を帳票化(見える化)し、自治体・地域包括支援センター職員・民間企業等における施策改善等の活用可能性を検討

## 3. 主な成果

### ✓ PHRシステムによる介護予防事業への効果

- ・サロン参加者の3割以上に、「知り合いの数」「会話の機会」「友人と会う機会(週1回以上)」の増加が見られた
- ・PHRシステムによるフィードバックが参加者の介護予防への意欲醸成に貢献 (92%の参加者が事業継続参加を意向)(今後4年間の要支援・要介護認定率を1.3%抑制できると試算)

### ✓ 情報連携基盤の導入・活用による効果

- ・課題や仮説の明確化、地域の多様な担い手の巻き込み、PDCA実践による施策品質向上・最適化等により、神戸市全域に展開すると年間4億円の介護給付費抑制効果と試算。